

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 5月4日

[評価実施概要]

事業所番号	(※評価機関で記入) 3470204649
法人名	社会福祉法人 平和会
事業所名	グループホームさつき
所在地	広島市佐伯区五月が丘五丁目2番3号 (電 話) 082-941-7088
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目46-9
訪問調査日	平成20年4月30日

[情報提供票より] (20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	利用定員数計 18 人 常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分
------	-----------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	63,000 円
敷 金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有 (150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 200 円 夕食 500 円 または1日当たり 円	昼食 500 円 おやつ 100 円	

(4) 利用者の概要 (4月 20日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人サツキ会 津元クリニック、岡田歯科医院
---------	-------------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

団地の中ほどに建てられたグループホームであるが近くに公園があり環境的には落ちついた雰囲気がかんじられる。入居者は落ち着いて笑顔が見られ私たちにも気軽に話をされた。職員は積極的に入居者に接しておられ特にその目線が良かった。二階と三階では入居者の状態が異なっているがそれに合わせた取り組みがされていた。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホーム長の交代によりグループホームの雰囲気がずいぶんと変わっていた。ホーム内の状況を積極的に説明しこれからの取り組みに役立てようとの気持ちがよく現れていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) このホームをより良い方向へ進めようとしておられる意気込みが感じられた。これからこの方向での具体的な取り組みがされることを期待すると共にその取り組みを次回に見せていただきたい気持ちになっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議が開かれており施設の状況などの説明がある。地域にとけこむ(重点項目④)努力をしておられるのでこの方向での議題など地域と連携した運営推進会議に進められることも期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会がありその会に参加する家族が多い。家族へは担当者が手紙により状況を知らせており家族は安心しているようだ。介護計画への反映や運営推進会議での意見を受け入れることをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のサロンに参加などの地域の人たちとの交流がある。特に地域の防災組織に入っておられることは災害のときお互いに助け合う地域となっている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時にグループホームとしての理念を制定している。	○	グループホームは地域の中でその人らしく暮らし続けられる理念が求められるようになってきている。職場内にその機運が感じられるので新しい理念の制定に向かって努力されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下や事務室などに張り出し皆によく見えるようにしている。新入社員には説明している。社員カードの裏側にも印刷して持っている。	○	理念に基いた介護のあり方を検討し、職員と共有し、実践する努力が期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り地域の活動に参加している。地域の高齢者サロンに参加し、入居者と地域の人の交流がある。地域の人から花の差し入れなどがあり、地域の中にとけこんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解しており改善に役立てるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の世話役、ボランティア、包括介護センター、家族代表による運営推進会議が開かれている。	○	参加しているサロンの方にも参加をお願いするとよい。

グループホームさつき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の実施している研修会には出席している。市へ提出する書類は持参している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会があり5月11日に16家族が集まり開かれる。毎月担当者が入居者の近況を家族に知らせる手紙を出している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会のとき、運営推進会議のときおよび介護計画作成のとき家族の意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業主体である平和会が運営する特別養護老人ホームとの人事交流がある。入居者にとっては職員の異動による新しい人との馴染みがすぐに出来ないところがあり、慣れるまではほかの職員と一緒に介護に当たっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の研修に参加させており、その結果をほかの社員に周知するための研修内容の周知をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホーム同士で職員のレベルアップ研修をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験宿泊や職員が訪問して入居予定者と馴染むように努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼間は職員とできるだけ一緒に過ごすようにしておられ、職員の視線が入居者の視線より高くないようにして話をしておられた。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に入居者の生活状況の調査や本人、家族の意向を聞き入居後の対応の方法を作られている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーと担当者ほかの職員が話し合っ介護計画をたてられている。	○	担当制を取っておられ、担当者は家族との関係や介護計画に関わっておられる。職員の異動のときはマイナス面もあるが日常生活では入居者との信頼関係を作り働きが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に一度見直しをされており、状態の変化があったときは見直しをされている。		

グループホームさつき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の要望を取り入れた運営をしておられるが多機能性を活かした取り組みはこれからのようである。	○	デイサービスの空いた時間のお風呂の利用や地域のサロンに参加しておられるなどの取り組みをより発展されることを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が往診や夜間対応、重度化したときの取り組みなど積極的に関わっておられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と重度化されたときの話し合いはされており、かかりつけ医とも相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を優しく対応しており誇りを傷つけないように接している。また個人情報 はきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思いやペースを大切にする取り組みが見られ、そのための時間を作る工夫もある。		

グループホームさつき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は自分で食べられるように工夫されており(きざみ食など) 食べ残す人は少ない。また準備や後片付けも入居者と一緒に行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後に用意されており、入る前には入居者の意向とバイタルチェックを行なっている。入らない人には清拭をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日を計画的に行事を組んでおり、入居者の意向を聞きながら実施している。入居者と職員が一緒になって大きな笑い声が聞こえた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブと計画されていてよく出かけている。また入居者の希望により外出もできる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口がオートロックされている。	○	出入り口の階段は転ぶ危険性はあるが入居者が自由に外出できることは大切であるから入居者のそぶりなどをよく観察し、外出のそぶりのあるひとには外出のサポートをされるなどの努力を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者も参加しての避難訓練を実施している。町内会の防災組織に入っておられ町内での災害時対策ができています。		

グループホームさつき

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はきちんと記録されており、一人ひとりの摂取をチェックし、支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や入居者の作品が展示してある。ゆったりとして椅子で入居者が話しておられる。テレビを見ている人の表情は落ちついておられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が持込んだ家具があり、タタミを引いた部屋もあった。		